

## 富山市内の中小企業の脱炭素化に向けた取組み 事例紹介



### 目次

- 1.事業の概要
- 2.中小企業向けカードゲーム「2050 カーボンニュートラル」体験型セミナーについて
- 3.脱炭素化に向けた計画策定支援について
- 4.支援事業参加企業の成果報告
  - ・株式会社富山環境整備
  - ・かね七株式会社
  - ・水井食品株式会社
  - ・株式会社村井工業

## 事業の概要

国内外でカーボンニュートラルに向けた機運が高まる中、富山市では、2050年CO2排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明するとともに、その実現に向けた方針・施策・温室効果ガス削減目標等を掲げた「富山市地球温暖化対策推進計画」を策定し、地域の脱炭素化を推進しています。

本事業では、産業部門の脱炭素化を推進するため、チームとやましに加入している企業等を対象にし、カードゲーム「2050カーボンニュートラル」を活用したセミナーを実施するとともに、セミナーに参加した企業を対象にカードゲームを活用した社内研修や省エネルギー診断等を実施することにより、企業の脱炭素化に向けた計画策定を支援します。

### チームとやましとは

脱炭素社会の実現のため、市民や企業の皆さんが自主的にチームを結成し、温室効果ガスの削減に取り組むプロジェクトです。

チームとやまし HP：[チームとやまし](#) -

### 事業スキーム

2024年7月開催

『中小企業向けカードゲーム  
「2050カーボンニュートラル」  
体験型セミナー』

支援事業を希望する  
中小企業を募集

2024年9月～2025年3月

脱炭素化に向けた計画策定  
支援事業

# 「中小企業向けカードゲーム「2050 カーボンニュートラル」体験型セミナー」

## 【目的】

ゲーム体験を通して脱炭素化の必要性を実感し、参加者同士の学び合いから、組織の将来ビジョンについて考え、脱炭素化に向けた具体的なアクションへと繋げていく。

## 【セミナー受講者】

富山市内の中小企業や個人事業主、財団法人等 17 社（合計 23 名）の経営者やエネルギー管理員、社員の方々

## 【研修実施日】

2024 年 7 月 30 日（1 日目）、7 月 31 日（2 日目）

## 【会場場所】

1 日目：富山市役所（8 階 802 号室）

2 日目：Toyama Sakura ビル（5 階中会議室）

## 【2 日間のプログラム内容】

1 日目	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ カードゲーム「2050 カーボンニュートラル」の体験</li><li>▪ 対談型による県内企業の省エネ事例紹介</li></ul>
2 日目	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ グループワーク（自社の実現したい未来像）</li><li>▪ 企業間の意見交換</li></ul>



カードゲーム体験



省エネ事例紹介



グループワーク



企業間の意見交換

## 【参加者の声】

- ・カーボンニュートラルを社会全体で目指すうえで、**異業種交流は必要だ**と思った
- ・学びを持ち帰り、**全社的に共有することがカーボンニュートラルへの第一歩だ**と思った
- ・脱炭素の目的を理解し、全社員で対話をして、**取り組み内容や目標を決めていきたい**

## 【結果】

参加者の**脱炭素化に対する取り組みの関心度**で高い評価（とても高まった：60%、高まった：40%）が得られました。

異なる組織間での横のつながりが生まれ、考えのブラッシュアップや、共創のアイデアが生まれていました。このセミナーを踏まえ、脱炭素化に向けた計画策定支援事業を実施しました。

## 【レポート】

富山ふるさと省エネ協会 HP に掲載

ホーム>実績紹介>「中小企業向けカードゲーム「2050 カーボンニュートラル」体験型セミナー」

URL：[「中小企業向けカードゲーム「2050 カーボンニュートラル」体験型セミナー」](#)（富山市主催） | [実績紹介](#) | [富山ふるさと省エネ協会](#)

# 脱炭素化に向けた計画策定支援事業

## 【目的】

カードゲームを活用した社内研修や、省エネルギー診断等を実施し、脱炭素化に向けた計画の策定を支援する。

対象	2024年7月30日・31日開催の「中小企業向けカードゲーム「2050カーボンニュートラル」体験型セミナー」（富山市主催）を受講し、チームとやましに参加している市内の中小企業
実施期間	2024年9月～2025年3月
支援内容	社内カードゲーム体験会、社内省エネセミナー、省エネルギー診断、脱炭素経営計画の策定 等
事業主体	富山市環境政策課
委託	一般社団法人富山ふるさと省エネ協会

2024年7月30日・31日開催の「中小企業向けカードゲーム「2050カーボンニュートラル」体験型セミナー」を踏まえ、脱炭素化に向けた計画策定支援事業に4社から応募がありました。

国では、企業の脱炭素化に向けた有効な取組みとして、「知る・測る・減らす」の3つのステップを段階的に実行していくことを推奨しています。本事業に応募いただいた企業の皆さんの脱炭素化に向けた取組みについて、STEPごとに事例を紹介します。

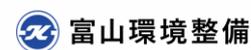
※なお、このSTEPは本事業内での取組みに基づいた指標であり、各企業の独自の取組みとは紐づいていません。



## 事例紹介① 株式会社富山環境整備

### 【企業概要】

株式会社富山環境整備は、廃棄物の収集・運搬・中間処理・最終処分・測定・分析などを行う環境事業者です。廃棄物処理、リサイクルプロダクト、アグリプロダクト、研究開発等を行っています。



〈業種〉 廃棄物処理・リサイクル業

〈資本金〉 2,000 万円

〈従業員数〉 260 名

<p>課題 (本事業に申し込んだ理由)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーンを通して脱炭素化が求められており、取引先から選ばれる企業であり続けるために、社員の意識向上が必要だと感じた</li> <li>・脱炭素を起点とした営業ができるようになることで、新たなビジネスチャンスを生み出したい</li> <li>・親しみやすいカードゲームをきっかけに、社員が脱炭素について考える機会を持ちたい</li> <li>・業界全体での脱炭素化に対する意識を高め、互いに協力し、課題を解決していけるような関係づくり・交流の機会を増やしたい</li> </ul>
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3社合同でカードゲーム「2050 カーボンニュートラル」を実施し、交流しながら互いに学び合う</li> <li>・カードゲームを通して、業界全体で共通して向き合うべき「カーボンニュートラル」について理解を深める</li> </ul>
<p>取組み内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードゲーム「2050 カーボンニュートラル」の体験（2日間に渡り、メンバーを変えて計4回の実施）</li> </ul>
<p>結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の脱炭素化に対する取組みの関心度で高い評価（とても高まった：60%、高まった：40%）が得られた</li> <li>・3社合同で実施することで、交流の機会が生まれ、今後の関係づくりのきっかけとなった</li> <li>・脱炭素化のためには、個々の組織の枠をこえて協同して取り組むことの大切さを体感する機会となった</li> <li>・ワークを通して、自社内で自身が取り組めそうなことについて考え、行動に繋げるきっかけとなった</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素経営計画を策定し、社内の脱炭素化を進める</li> <li>・脱炭素を起点とした営業ができるような社員教育を行う</li> <li>・自社内の省エネ診断を実施し、経費を削減する</li> <li>・カーボンニュートラルの取組みを地域にも広げていく</li> </ul>

### 【3社合同研修セミナーの様子】

〈対象・研修場所〉

受講者：富山環境整備（30名）、クリーン産業（17名）、高岡市衛生公社（20名）計67名

実施日：2024年11月12日、11月13日（2日間に渡り、計4回の実施）

会場：富山環境整備アグリ事務所

〈ゲーム体験〉

今回の3社合同カードゲーム研修セミナーでは、同じ内容のカードゲームを、2日に渡り4回に分けて行いました。排出量の大きな変動がなく温室効果ガスが増え続けていった回、最終的にカーボンニュートラルを達成した回と様々でした。

ゲーム終了後の振り返りでは、「ゲーム中に意識したこと」「次やるとしたらどんな行動を取るか」について対話を通して言語化しました。意識が行動を生み、行動が結果を生んでいることについて気づきを得て、カーボンニュートラル実現の難しさやその必要性について理解を深める時間となりました。



ゲーム中の様子



お金の交渉をする場面も



newsを読み上げる様子

研修セミナー 受講者の声	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分たちのゴールを意識するか、カーボンマップを意識するかで行動が変わった。もっと周りへの働きかけができたらよかった</li><li>・周りとのタイアップの必要性を感じた。ゴールを達成するために1企業だけで頑張るには限界があると感じた</li><li>・カーボンニュートラルの達成とGDPの両立のためにはひとりひとりの意識がとても重要だと感じました</li><li>・廃棄物を扱う企業として、焼却や埋め立て物を減らすよう努力したい。お客様への提案や社内での分別を意識していきたい</li><li>・部署内で脱炭素化に関する行動目標を設定したい</li><li>・トラックを使用することが多いので、排気を抑えるための効率の良いルートを話し合ったり、電気自動車を増やしたりしていくことが必要だと感じました</li><li>・収集先に対しても脱炭素化に対する意識を向上させるような営業活動に取り組んでいきたい</li><li>・3社合同でのセミナーによって、名前は存じているけれど顔を合わせる機会がなかった方と交流ができてよい機会となりました</li><li>・3社で協力して社会に影響を与えられるよう行動していきたいです</li></ul>
-----------------	--

### 【参加者へのインタビュー（クリーン産業株式会社 森様）】



7月に富山市主催で開催されたカードゲームにも参加しましたが、自分の学びを会社に持ち帰り、他の社員に広げていくことにハードルの高さを感じていました。今回、他の社員とも一緒に参加できたことで、脱炭素化・カーボンニュートラルについて考える仲間が増え嬉しく思っています。今夏、自分自身が熱中症で救急搬送されるという経験をし、身をもって夏の暑さの危険と温暖化による影響を感じました。自社においては、廃棄物をリサイクルするという好循環をさらに促すことで、会社全体の環境意識を高めていきたいです。

### 【常務取締役：松浦志帆子さんの想い】



3社合同の研修セミナーが終わり、社員から「他社の方々と交流ができて大変よかった」との感想を聞き、嬉しく思っています。普段は競合関係といえるかもしれませんが、コロナ渦や能登半島地震の際に会社の垣根を超えて互いに協力していくことの大切さを感じ、脱炭素化においても業界全体で協力していくことが大切だと考えています。

弊社の社員に対しては、リサイクルプロダクトやアグリプロダクトといった環境に対する取組みの魅力を取引先や地域の方々に発信し、業務における強みにしてもらいたいです。また、カーボンニュートラルの実現に向けて「もっとこうしたらいいんじゃないか」といった議論が飛び交う会社になると嬉しいです。弊社は地域に根差した事業をしているので、自分たちが率先して脱炭素化の取組みを進め、地域全体にも還元できるよう取り組んでいきたいです。

## 事例紹介② かね七株式会社

### 【企業概要】



かね七株式会社は、創業明治17年「味づくり100年」の食料品製造業です。  
煮干・かつお節・だしパック・昆布巻・風味調味料・ほたるいか珍味等を製造しています。

〈業種〉食料品製造業

〈資本金〉4,500万円

〈従業員数〉115名

課題 (本事業に申し込んだ理由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化による海水温度上昇等の影響を受け、年々、海産物の漁獲量が減っている。原料価格も高騰し続けており、危機感を持っている</li> <li>・「海の恵みを生かす」という理念のもと、率先して脱炭素化に取り組み、取引先から選ばれ続ける企業でありたい</li> <li>・使用エネルギーを見える化し、ムダを省くことで経費削減を目指したい</li> </ul>
---------------------	--

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー診断を実施し、エネルギーの見える化を行い、エネルギー削減のための提案を受けることで経費の削減を目指す</li> <li>・脱炭素経営計画の策定を通して、脱炭素化に対する社員の意識向上を促し、具体的な実施策について共有する</li> </ul>
----	---

取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー診断の実施</li> <li>・社内省エネセミナーの開催</li> <li>・脱炭素経営計画の策定</li> </ul>
-------	--

結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の脱炭素化に対する取り組みの関心度で高い評価を得た（とても高まった：60%、高まった：40%）</li> <li>・省エネルギー診断の実施によって、年間で23.5t-CO<sub>2</sub>/年(CO<sub>2</sub>換算)のエネルギーが削減可能であることが分かった</li> <li>・脱炭素経営計画の策定を通して、脱炭素化に対する社員の意識が向上し、実践に移すきっかけとなった</li> </ul>
----	---

今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素経営計画を実践し、社内の脱炭素化を進め、2030年までにCO<sub>2</sub>排出量を2024年比で4%削減する</li> <li>・省エネルギー診断書を活用し、補助金を活用した設備の更新を実施する</li> <li>・脱炭素化に向けた取組みを、社内外に発信し、新たなビジネスチャンスに繋げる</li> <li>・経費を削減することで、値上げすることなく、質の高い商品をお客様に提供する</li> <li>・脱炭素化に向けた取組みを通して、海の恵みを守ることに貢献する</li> </ul>
-------	---

## 【取組みの様子】

〈対象・研修場所〉

受講者：5名（省エネ委員会メンバー）

実施回数：4回

実施場所：かね七顆粒課事務所

〈省エネルギー診断〉

省エネルギー診断を実施し、使用エネルギーの見える化と、エネルギー削減が可能な設備について提案を行いました。

省エネルギー診断によって、年間で

★23.5t-CO<sub>2</sub>/年の削減（CO<sub>2</sub>換算）

★10.5kL/年の削減（原油換算）

★事業所全体の1.5%の削減が見込めることが分かりました。



省エネ委員会の様子

〈脱炭素経営計画〉

省エネルギー診断の内容を踏まえ、省エネセミナー（「エネルギーの視点から見た企業の未来」）を実施。

その後、省エネ委員会メンバーで話し合い、脱炭素経営計画を策定しました。

脱炭素経営計画では、

- ・老朽化した空調の更新
- ・エアリーク対策の実施（老朽化したホースの更新）
- ・蛍光灯のLED化 等

全16項目を盛り込み、2030年までにCO<sub>2</sub>排出量を2024年比で4%削減することを目標としました。



エアリークの提案(左)/蒸気配管の保温の提案(右)



2024年 太陽光パネルを導入しました

省エネ委員会メンバーの声	<ul style="list-style-type: none"><li>・脱炭素化の取組みを進めていくことは、自分たちの作業環境を良くすることにも繋がっていくことを学んだ</li><li>・計画策定を通して、工場内各所のエネルギーのムダを省いていきたいと思った</li><li>・蛍光灯が製造禁止になることを知り、今後はLED化を積極的に進めていきたい</li><li>・省エネ・生産性のどちらも向上させるために、各機器の動線の適正化も進めていきたいと思った</li><li>・計画の中に盛り込まなかった他の設備についても、省エネの余地がないかを考えていきたい</li></ul>
--------------	--

【総務・製造部課長:石黒文敏さんの想い】



—支援事業を終えた感想—

省エネ効果について、専門的な視点から可視化していただけて、取り組むべき課題が明確になりました。

来期以降は、策定した脱炭素経営計画のもと、使用期間が長くなっている冷凍庫や空調設備の更新についても進めていきたいと考えています。

「海の恵みを生かす」という理念のもと、脱炭素に向けた取組みを積極的に行っていき、その取組みを社内外に発信していくことが理想です。

また、経費の削減によって、値上げすることなく、お客様に質の高い商品を提供し

続けたいです。

—社員の方々に向けて—

目の前のことに精一杯になりがちですが、長期的な地球環境や将来世代の生活を想像して、ともに協力しながら取り組んでくれると嬉しいです。

## 事例紹介③ 水井食品株式会社

### 【企業概要】

水井食品株式会社は、ほたるいか珍味や白えび珍味等を製造する、食料品製造会社です。かね七株式会社のグループ会社として、富山を代表する海産物を活用し、ふるさとの懐かしい味と新たな食ニーズから生まれた製品を全国に届けています。

〈業種〉食料品製造業

〈資本金〉1,000万円

〈従業員数〉9名

課題 (本事業に申し込んだ理由)	<ul style="list-style-type: none"><li>・地球温暖化による海水温度上昇等の影響を受け、年々、海産物の漁獲量が減っている。自社で取り扱っている海産物を守るには、脱炭素化を進めていくことが必要だと感じている</li><li>・脱炭素化に向けて、自分たちが取り組むべき課題を知りたい</li><li>・不要電力を減らし、経費削減を目指したい</li></ul>
目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・省エネルギー診断を実施し、エネルギー削減のための課題を知る</li><li>・脱炭素経営計画の策定を通して、脱炭素化に対する社員の意識向上を促し、計画の実践に繋げる</li></ul>
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・省エネルギー診断の実施</li><li>・社内省エネセミナーの開催</li><li>・脱炭素経営計画の策定</li><li>・脱炭素経営計画に基づく実践</li></ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"><li>・参加者の脱炭素化に対する取り組みの関心度で高い評価を得た（とても高まった：100%）</li><li>・省エネルギー診断の実施によって、取り組むべき課題が明確になった</li><li>・脱炭素経営計画の策定を通して、脱炭素化に対する社員の意識が向上し、実践に移すきっかけとなった</li></ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"><li>・脱炭素経営計画を実践し、社内の脱炭素化を進め、2030年までにCO2排出量を2024年比で5.5t削減する</li><li>・作業環境の向上と、省エネの向上を両立させる</li><li>・脱炭素化に向けた取組みを通して、海産物を守ることに貢献する</li></ul>

## 【取組みの様子】

〈対象・研修場所〉

受講者：6名（省エネ委員会メンバー）

実施回数：4回

実施場所：水井食品事務所

〈省エネルギー診断〉

省エネルギー診断を実施し、使用エネルギーの見える化と、エネルギー削減が可能な設備について提案を行いました。

省エネルギー診断によって、年間で

★7.2t-CO<sub>2</sub>/年の削減（CO<sub>2</sub>換算）

★3.4kL/年の削減（原油換算） の削減が見込めることが分かりました。



省エネ委員会の様子

〈脱炭素経営計画〉

省エネルギー診断の内容を踏まえ、省エネセミナー（「エネルギーの視点から見た企業の未来」）を実施。

その後、省エネ委員会メンバーで話し合い、脱炭素経営計画を策定しました。

脱炭素経営計画では、

- ・ 設定温度の緩和
- ・ 室外機フィンの洗浄
- ・ 蛍光灯のLED化 等

全8項目を盛り込み、2030年までにCO<sub>2</sub>排出量を5.5t削減することを目標としました。

〈脱炭素経営計画に基づく実践〉

脱炭素経営計画をもとに、課題に取り組みました。

実際に実施した取組みについて、その一部をご紹介します。

### ★LED化の実施

事業所では蛍光灯を使用していましたが、その全てをLEDに更新しました。LEDは、蛍光灯と比較して消費電力が少なく寿命も長いため、省エネとなりました。

### ★間引き運転の実施

LEDに更新する際に、照明の間引きも併せて行いました。作業に影響のない範囲で照明を間引くことで省エネとなりました。

### ★フィンの洗浄

室外機の汚れを落とすことで、空調機の効率を保ちました。



LED化と間引き運転(左)/

フィンの洗浄講習会の様子(右)

<p>省エネ 委員会 メンバーの 声</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定温度の緩和やフィンの洗浄等、自分たちでできそうなことが多いと感じた</li> <li>・フィンの洗浄といっても、具体的にどこを洗えば良いか分からなかったが、実際に洗浄の仕方を見て学べたのがよかった</li> <li>・フィンの洗浄のやり方を実際に見て、簡単だし、継続できそうだと感じた</li> <li>・照明の間引き運転をすぐに実践できたのがよかった</li> <li>・もっと省エネに積極的に取り組んでいきたいと思った</li> </ul>
------------------------------------	--

【取締役:石黒直人さんの想い】



— 支援事業を終えた感想 —

脱炭素への機運を感じ、向き合うべき課題だとは思いつつも、具体的に何をすれば良いのか分からず悩んでいました。

省エネルギー診断を受けたことで、取り組むべき課題が明確になり、良かったです。

また、実際に LED 化に取り組んだり、フィンの洗浄の仕方を習ったりすることで、“自分たちでできる”という自信にも繋がりました。

来年度以降は、省エネの向上と作業環境の向上を両立させることを目標に、継続

して取り組んでいきたいです。

— 社員の方々に向けて —

今回の支援事業を通して、具体的に何をすれば良いのか？を学ぶことができたかと思います。誰かだけが頑張る状態では、目標は達成できないと思うので、一人ひとりが意識をもって、取り組んでくれたら嬉しいです。

また、各家庭にも学びを取り入れて、脱炭素の輪がさらに広がっていくことを期待しています。

## 事例紹介④ 株式会社村井工業

### 【企業概要】

株式会社村井工業は、1968年創業の富山市にある「精密板金加工メーカー」です。作る製品は、「半導体製造装置」の機械部品や、「路線バス」の内装品に使われています。



精密板金・レーザー加工  
株式会社 村井工業

〈業種〉精密板金加工業

〈資本金〉1,160万円

〈従業員数〉46名

<p>課題 (本事業に申し込んだ理由)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取引先から SBT 認証の案内をされる等、今後、脱炭素化に対する取り組みが求められる時代が来ると感じている</li> <li>・社内外に自信を持ってアピールできるような、脱炭素化に向けた取り組みを行いたい</li> <li>・社員を巻き込んで、一緒に課題に取り組み、最終的には自走できるような体制を作りたい</li> </ul>
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー診断を実施し、使用エネルギーの見える化を行い、ムダなエネルギーがどこで発生しているのかを知る</li> <li>・脱炭素経営計画を策定・実践し、エネルギー使用量を削減する</li> <li>・セミナーや脱炭素経営計画の策定を通して、社員の脱炭素化に対する意識を向上させる</li> </ul>
<p>取り組み 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー診断の実施</li> <li>・社内省エネセミナーの開催</li> <li>・脱炭素経営計画の策定</li> <li>・脱炭素経営計画に基づく実践</li> </ul>
<p>結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の脱炭素化に対する取り組みの関心度で高い評価を得た（とても高まった：50%、高まった：50%）</li> <li>・脱炭素経営計画をもとに実践し、事業所全体の約5%のエネルギーを削減し(CO2削減量：9.5t-CO<sub>2</sub>/年)、社内外にアピールする足掛かりを築いた</li> <li>・セミナーや省エネ委員会活動を通して、脱炭素化への取り組み方法を学び、自走していくきっかけとなった</li> </ul>
<p>今後の 展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な取り組みによって、2030年までにCO2排出量を2024年比で21%削減する</li> <li>・脱炭素化への取り組みを起点としたビジネスチャンスを創出する</li> <li>・省エネルギー診断書を活用し、補助金を活用した設備の更新を実施する</li> <li>・工場内レイアウトの最適化によって、「省エネの追究」と「生産性の向上」を目指す</li> </ul>

## 【取組みの様子】

〈対象・研修場所〉

受講者：12名（省エネ委員会メンバー）

実施回数：6回

実施場所：村井工業事務所

〈脱炭素経営計画〉

省エネルギー診断の内容を踏まえ、省エネセミナー「デマンド管理とは？」「エネルギーの視点から見た企業の未来」を実施。

その後、省エネ委員会メンバーで話し合い、脱炭素経営計画を策定しました。

脱炭素経営計画では、

- ・ 梱包室の遮熱
- ・ エアリークの低減
- ・ 灯油使用量の削減 等

全12項目を盛り込み、2030年までにCO2排出量を2024年比で21%削減することを目標としました。

〈脱炭素経営計画に基づく実践〉

脱炭素経営計画をもとに、実践と報告会を繰り返しながら、課題に取り組みました。

実際に実施した取組みについて、その一部をご紹介します。

### ★リフレクティックス(遮熱材)の導入

リフレクティックスという遮熱材を、梱包室の西日の当たる部分に施工しました。梱包室は西日が当たり、夏場の室内壁温度が40℃を超えていました。熱反射率99%の遮熱材を対策として取り入れ、冷暖房時のエネルギー削減効果を検証しています。

### ★エアリーク調査の実施による、エアリークの低減

工場内のエアリーク調査を、エアリークビューアーを使用して検出しました。金額換算にして年間で、約40万円/年ものエアリークが漏れていることが判明。すぐにホース等の取り換え作業を実施し、73%のエアリークを防ぎました。

### ★エアガン流量調整器の導入による、エア消費の削減

エアガンの空気圧を調整できる流量調整器を導入。エアリーの消費量を削減しました。

### ★ヒーターベストの普及による、灯油使用量の削減

冬期の灯油の使用量が多いことから(主にストーブで使用)、ヒーターベストを普及し、灯油量の削減を図りました。

### ★空調室外機フィンの洗浄

室外機の汚れを落とすことで、空調機の効率を保ちました。

### ★昼休みの一斉休憩による、稼働設備電源オフの実現

休憩室を新設したことで、社員が一斉に休憩を取れるようになり、その間の、工場および事務所内設備の電源オフが実現しました。



省エネセミナーの様子



エアークリーニングの様子(左)/

遮熱材の導入(右)



室外機フィンの洗浄(左)/

2024年12月完成 新しい休憩室(右)

省エネ  
委員会  
メンバーの  
声

- ・脱炭素化への取組みは、今後自分たちが仕事をしていく上で当たり前になっていくことだと分かった
- ・ストーブを、朝から帰るまでつけたままにしていたが、少し暖かくなった時点で消すようになった
- ・エアークリーニングによって、思ってもいなかったところから漏れていることが分かりびっくりした
- ・エアークリーニングに対して、これまでは、見て見ぬふりをしてきたが、金額換算での損失を知ったことで、すぐに直そうというアクションに繋がった
- ・遮熱について、梱包室だけでなく、屋根と躯体にも施工することで、作業環境を良くしたい
- ・脱炭素化に向けた取組みにプラスして、工場内レイアウトの最適化によって、生産性の向上にも取り組んでいきたい

【取締役 統括管理部長：村井勇基さんの想い】



— 支援事業を終えた感想 —

脱炭素化を進めていく上で、まずは現状把握が必要だと思い、省エネルギー診断を実施してもらいました。すると、お金をかけて実現できる省エネと、お金をかけなくてもできる省エネがあるということを知ることができました。何にでもただお金をかければよいということではなく、自社努力で取り組めることもあると気づかせてもらったのが良かったです。また、省エネ項目の実施による削減効果を、数値で出してもらえたことで、社員のやる気に繋がったことも良かったと感じています。約半年間で、たくさんのことに取り組んできましたが、来年度以降も、ふるさと省

エネ協会様の力を借りつつ、自分たちでできることは積極的に取り組み、自走できるように努めたいと思います。  
— 社員の方々に向けて —

仕事をしていると、これはなぜやるのだろうかや疑問に感じたり、これはムダじゃないかと感じたりすることがきっとあるはずです。ささいなことでも、感じたことは積極的に挙げてもらい、会社としても、そういった声を逃さず共有し、社員全員で課題に取り組んでいけると嬉しいです。

【レポート】

事例紹介① 株式会社富山環境整備

富山ふるさと省エネ協会 HP に掲載

ホーム>実績紹介>【富山環境整備様】富山市「脱炭素化に向けた計画策定支援事業」

URL: [【富山環境整備様】富山市「脱炭素化に向けた計画策定支援事業」 | 実績紹介 | 富山ふるさと省エネ協会](#)

事例紹介② かね七株式会社

富山ふるさと省エネ協会 HP に掲載

ホーム>実績紹介>【かね七様】富山市「脱炭素化に向けた計画策定支援事業」

URL: [【かね七様】富山市「脱炭素化に向けた計画策定支援事業」 | 実績紹介 | 富山ふるさと省エネ協会](#)

事例紹介③ 水井食品株式会社

富山ふるさと省エネ協会 HP に掲載

ホーム>実績紹介>【水井食品様】富山市「脱炭素化に向けた計画策定支援事業」

URL: [【水井食品様】富山市「脱炭素化に向けた計画策定支援事業」 | 実績紹介 | 富山ふるさと省エネ協会](#)

事例紹介④ 株式会社村井工業

富山ふるさと省エネ協会 HP に掲載

ホーム>実績紹介>【村井工業様】富山市「脱炭素化に向けた計画策定支援事業」

URL: [【村井工業様】富山市「脱炭素化に向けた計画策定支援事業」 | 実績紹介 | 富山ふるさと省エネ協会](#)

2025年3月

一般社団法人富山ふるさと省エネ協会 作成

